

医療環境を守るために ～先を見据えて～

プロジェクトMによる医療提供体制の強化を進めています。

○確保病床のうち、中等症・軽症の専用病床を増床しました。



軽症者用臨時医療施設の開設

白石町(病床50床程度)などに開設

医療行為が必要な軽症者

医師、看護師による24時間体制



宿泊療養施設の追加

状況に応じて稼働(伊万里市など)

軽症者・無症状者

看護師による24時間体制



機動的・戦略的に運用

一つになって、
乗り越えよう。



チーム佐賀オール佐賀で前を向いて

県民のみなさまへ



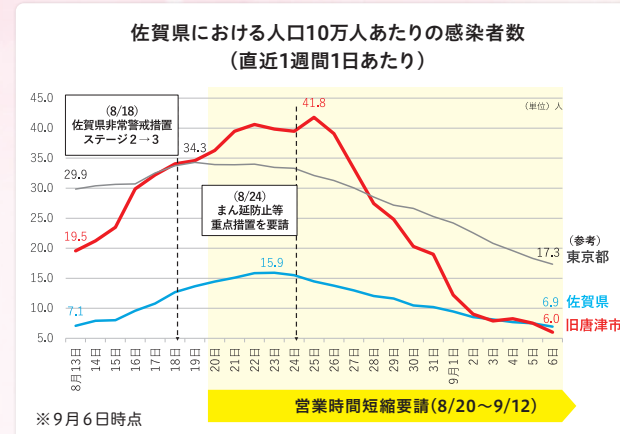
佐賀県知事
やまぐち よしのり
山口 祥義

新型コロナウイルス感染症対策で、大切な医療現場を守り抜いていただいている医療従事者の皆様、介護、福祉、保育、教育など、様々な現場を支えていただいている皆様に心から感謝申し上げます。

佐賀県では、8月18日から県内全域に「医療環境を守るための非常警戒措置」、8月27日から旧唐津市に「まん延防止等重点措置」を行い、県民の皆様のご協力のもと、チームで感染拡大防止に取り組んでまいりました。その結果、感染者数は減少傾向となつています。このことは、唐津の皆様の一丸となった頑張りとお県民の皆様への取り組みの成果です。感謝申し上げます。今後も引き続き、「先手先手」の姿勢を緩めることなく、県民の皆様の尊い命を守るために力を尽くしてまいります。

8月には、豪雨による甚大な被害が県内各地で生じました。今もなお被災されている方々が1日も早く元氣な姿に戻れるよう、市町、地域と一体となつて、復旧・復興に力を尽くしてまいります。

コロナ禍に豪雨という2つの危機に対し、エールを送り合いながら心をひとつにして、チーム佐賀・オール佐賀でこの難局を乗り越え、ともに前へ進んでいきましょ。

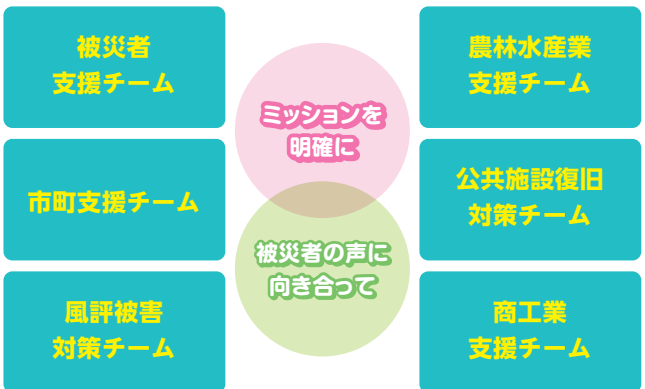


国・市町・地域と連携して推進

大雨災害の復旧・復興に向けて

気候変動対応型の復旧・復興を目指します
～これまでと次元の違うハード・ソフトの対応へ～

佐賀県(令和3年8月豪雨災害)復旧・復興推進本部(8/18～)



内水対策プロジェクトチーム

異常気象と考えるのではなく、同じような豪雨は毎年発生するという前提に取り組みます

内水状況の把握

被害軽減につなげる対策

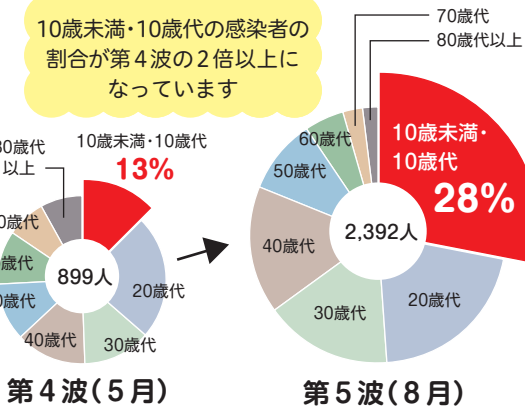


県庁危機管理センター

第5波の特徴

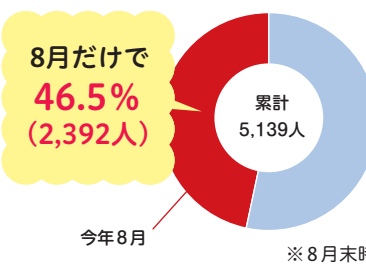
若い世代への感染拡大

デルタ株により若い世代の感染が増えています。また、10歳代、20歳代などの若い世代でも中等症で入院する方が増えています。これまで以上に感染予防の徹底をお願いします。



感染力が強い

これまでの感染者数(累計)に占める今年8月の感染者数



チーム佐賀オール佐賀で県民と共に取り組んできた1年半(対策本部会議 第1回～100回)

病床利用率:折れ線グラフ 感染者数:棒グラフ 新型コロナウイルス感染症対策本部会議開催回数:○内の数字

